

# 目次

## [概要](#)

### [アクティブなクラスタのロードつりあい機使用における最良の方法](#)

### [基礎ポート必要条件](#)

## 概要

この資料は特定のロードつりあい機に関する推奨事項を、アクティブなクラスタの F5 のような、記述したものです。ロードつりあい機を通過しなければならない場合 Cisco インフォメーション・サーバー ( CIS ) はロードつりあい機に気づいていないし、どうにか通信を変更しません。たとえば、CIS はパケットを絞りませんし、バイトストリームを変えません。CIS とロードつりあい機間の相互対話は受動そうそこにです特定の推奨事項ではないです。

## アクティブなクラスタのロードつりあい機使用における最良の方法

- アクティブなクラスタにロードつりあい機またはロードつりあい機コマンドおよび制御の要網的な対応がありません。
- ラウンドロビン ロード バランシング方式は推奨されるコンフィギュレーションです。
- ホスト名を設定する時 Web サービス記述言語 ( WSDL ) が各個々のホストの代りにロードつりあい機を指すことを確かめて下さい。
- ロードつりあい機を通して合成スタジオを運営できません。CIS サーバの例に直接接続することを確かめて下さい。

## ポート必要条件を基づかせて下さい

少なくとも基礎ポート ( CIS HTTPポート ) をおよび基礎ポート +3 ポートまで必要とします。これらの追加ポートは基礎ポートから得られます:

- 基礎ポート +1 = JDBC および ODBC
- 基礎ポート +2 = HTTP SSL
- 基礎ポート +3 = JDBC SSL
- 基礎ポート +4 は = 予約しました
- 基礎ポート +5 は = 予約しました
- 基礎ポート +6 = モニタ
- ( インストールされた場合 ) 基礎ポート +7 = アクティブなクラスタ/JGroups
- ( インストールされた場合 ) 基礎ポート +8 = MySQL データベース
- ( インストールされた場合 ) 基礎ポート +9 = 合成モニタ